



8月30日から9月1日にかけて、青森県の下北半島ジオパークで第14回日本ジオパーク全国大会下北大会が、「ジオパークでつながる 海 大地 未来」をテーマに開催されました(写真1)。今月は、その様子をご紹介します。

第14回日本ジオパーク全国大会下北大会

<8月30日(金) 開会セレモニー>

大会初日は、午後から津軽海峡海鳴り太鼓保存普及会の皆さんのアトラクションで始まりました。その後、開会セレモニーが行われ、主催者・共催者あいさつ、歓迎のあいさつ、祝辞が披露されました。また、今年は世界ジオパークネットワーク(GGN) 創立20周年の記念すべき年で、GGN会長のニコラス・ソウロス氏のビデオメッセージが披露されました。

開会セレモニーでは、毎年日本ジオパークネットワーク(JGN) 表彰が行われています。今年、NHK「ブラタモリ」制作チームが感謝状を贈呈され、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ、NPO法人有珠山地域ジオパーク友の会の2団体と、波田重熙氏(高知大学及び神戸大学名誉教授、元神戸女子大学学長、山陰海岸ジオパーク学術顧問)が表彰されました。波田先生は、ユネスコと国際地質科学連合による国際協力研究プロジェクトである「地質科学国際研究計画」の日本委員会委員長として活躍され、日本におけるジオパークの設立に貢献されました。2003年には、「名勝天然記念物但馬御火浦保存管理計画書」の中で、山陰海岸国立公園のジオパークの可能性を提案され、山陰海岸各地でジオパークについての講演をされています。これが、国内最初のジオパークに関する動きで、今回の表彰は山陰海岸ジオパークにとって非常に喜ばしいものとなりました(写真2)。

開会セレモニーの後は、「わたしたちの海」というテーマで、パネルディスカッションが行われました。そして、夕方からは大交流会で、いろいろなジオパークと交流を深めました。

<8月31日(土) 口頭発表・ポスター発表>

大会2日目は、口頭発表とポスター発表が行われました。また、大会期間中はいろいろな催し物が同時並行で行われており、ジオパーク巡回展「地球時間の旅」や、エクスカージョンも開催されていました。

口頭発表は、午前中が小中高生の部、午後が一般の部の発表でした。小中高生の部では、山陰海岸ジオパークからは、京都府立丹後緑風高校網野学舎の生徒たちが、「ジオいく! ~生・活・育~」というテーマで発表しました。一般の部では、安藤が「えっ! 演劇とジオ? ~「ジオサイトの魅力を伝える動画作成」の取り組み~」というタイトルで、演劇とジオパークのコラボレーションイベントについて発表しました。その他に、推進協議会の小長谷専門員の「その土地の自然と共にある人々の暮らしを感じられるジオウォーク」、兵庫県立大学の佐野先生の「ジオパークにおける地質遺産保全のための簡易モニタリング法の開発」、鳥取自然体験塾の長谷川さんの「お掃除カヤックへの取り組み」の発表がありました。(裏面にづく)



【写真1:大会プログラムの表紙】



【写真2:波田先生と山陰海岸ジオパークのメンバーによる記影撮影の様子】

ポスター発表では、豊岡市ジオパーク普及啓発専門員の成田先生が、「山陰海岸ジオパークを取り入れた豊岡ふるさと学習」について発表されました。

＜9月1日（日） 分科会・閉会セレモニー＞

大会3日目（最終日）は、市内の各会場に分かれて分科会が開催されました。安藤は、分科会3「実験を活用したジオパーク教育の手法と活用」に参加しました。この分科会では、各地域のガイド活動や普及啓発で行われている実験を実際に見学し、グループごとに意見交換を行いました。身近なものを使って、自然界で起きている地質現象を紹介する事例など、いろいろなアイデアを知ることができ、大変参考になりました（写真3）。



【写真3: ココアパウダーを利用したカルデラと付加体の再現実験】

分科会の後は、メイン会場で「令和6年能登半島地震の記憶継承に関する共同声明」の発表と閉会セレモニーが行われました。共同声明は、いといがわ はくさんとどりがわ さと なまはさんろく たてやまくろべ きょうりゆうけいにく かつやま 糸魚川、白山手取川、佐渡、苗場山麓、立山黒部、恐竜渓谷ふくい勝山の各ジオパークが共同で発表されました（写真4）。また、閉会セレモニーでは、今大会の内容が報告され、全体の参加者数が739名と発表されました。台風の影響で来られなかった方もいる中、多くの方が参加されたことに驚きました。次に、次回開催地のとからだけ十勝岳ジオパーク（北海道）の皆さんがPRをされ、最後に主催者のお礼と閉会あいさつで、大会は終了しました。



【写真4: 共同声明の様子】

＜9月2日（月） ポストツアー＞

大会終了後、ポストツアー「軌跡の造形美『ほとけがうら仏ヶ浦』～下北半島誕生の秘密～」に参加しました。ツアーでは、がんかけいわ願掛岩と呼ばれる岩脈や津軽海峡文化館アルサスの展示を見学し、その



【写真5: 仏ヶ浦の景観（左から五百羅漢、蓬莱山、如来の首）】

後、遊覧船で仏ヶ浦に行きました。仏ヶ浦には、海底火山の噴火によってできたりまくしよくきょうがいがん緑色凝灰岩が侵食されてできた独特な景観が広がっています（写真5）。これらの大地の芸術的な景観に感動しました。

日本ジオパーク全国大会は、各地域ブロックの持ち回りで毎年開催されています。そこで、各ジオパークの取り組みの紹介や、課題などが話し合われます。今回の大会でも多くの活動事例が紹介され、課題が共有されました。このような大会は、日本だけでなくヨーロッパジオパークネットワーク（EGN）やアジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）、世界ジオパークネットワーク（GGN）などでも行われており、それぞれのジオパーク活動の知識と経験の共有が行われています。各ジオパークの活動を参考に、山陰海岸ジオパークをさらにより良いものにしていかなければならないと、大会を通じて強く思いました。（安藤）

＜参考文献・Web サイト＞

- 世界のジオパーク編集委員会・JGN 共編：世界のジオパーク、オーム社（2010）
- 第14回日本ジオパーク全国大会下北大会オフィシャルサイト、
<https://2024.shimokita-geopark.com>
- 日本地質学会、
<https://geosociety.jp/outline/content0181.html>

《イベント情報》

- 10/6（日）ジオパークの星空観望会②
- 10/12（土）ガイドと行くツアー 駈馳山編
- 10/27（日）オリジナルの焼き物を作ろう！
～真名焼き陶芸体験～